

年号	西暦	熱海・伊豆山の出来事(室町～明治)
室町 時代		
建武 2	1336	9月5日、日金山の開祖三仙人の墓と伝えられている東光寺宝篋印塔が建立される(銘文)。この頃、「全海」なる僧により「走湯山縁起」を書写されている。
	1338	足利尊氏が征夷大将軍になる。
応安 7	1374	この頃 熱海にて陶器及び塩作らる。
嘉吉 1	1441	泉の保善院が僧安叟により創建される(それより以前、鎌倉時代には真言宗の日金山光北寺であった)。岩戸山(龍の頭)を中心に曼荼羅に東光寺(日金)、西光寺(岸谷)、光南寺(土沢)、光北寺(後の保善院)を配し、走湯の温泉の湯煙を龍口とみなし修験道の道場とした。
永生 14	1517	伊豆山の「役の行者堂」の木像並びに脇像二鬼神が赤井谷にて造られる。
天正 10	1582	徳川家康の命により朝比奈弥太郎が小田原に北条氏綱を説得しての帰り、日金山
天正 18	1590	4月1日、豊臣秀吉の小田原征伐の堀秀政、木村、丹羽、長谷川の軍勢、日金山を焼き払われる。その火は3日3晩燃え続けたという。(伊豆山古老伝) 伊豆山権現並びに箱根権現の復興奉行を命じ再興をせしむ。 この頃より綱代、多賀、伊豆山、初島等の石を江戸城築城の為採始む。
慶長 8	1603	二月 徳川家康、征夷大将軍となり 江戸 幕府を開く。
慶長 10		石材を運ぶ為、島津氏・浅野氏・黒田氏などが各自300艘の以上の石船を出す。 九端帆(100人持ちの石2つ)の石船3000艘が月2回江戸と伊豆を往復。
慶長 17	1612	1月13日、徳川家康、伊豆山権現、箱根権現を再興、社領三百石寄進さす。
慶長 19	1614	(山内文書)による石普請内訳 熱海村 津山城主森右近忠政 伊豆山村 姫路城主池田多賀 広島城主福島正則(多賀一帯) 飢肥城主伊東祐慶 鍋島信濃守勝茂(上多賀)(下多賀木) 小浜城主京極丹後守忠高(和田木馬頭観音上) 浅野幸長(下多賀宮川)
寛文 7	1667	小田原城主稲葉美濃守正則、伊豆山権現並に末社を大修復(伊豆山神社棟札)
寛文 11	1671	日金地蔵堂に地藏菩薩像、掌善・掌悪童子の銅像つくられる。(願主僧盛算)
享保 10	1726	9月24日、般若院僧英澄、伊豆山・逢初地藏堂修復。延命地藏尊を経文を練って
宝暦 11	1761	伊豆山修験道の先達円光院義観、「伊豆峰次第」を書き改める(千葉千代蔵)。
安永 5	1776	四国の中山高陽、日金山に登り「富士山図」を画く。 日金道に「町目地藏」建立さる。 (木箱銘／伊豆山神社神庫蔵) 峠地藏堂の老婆の絵がある。
文化 11	1814	伊豆山権現別当般若院の法印周道、「伊豆山略縁起」の版木本を作る。周道はこの他、本宮・山の神・清滝堂(光明講)の石祠の銘を建てている。 この中に末代上人の供養塔婆の絵がある。
文政 3	1820	白井通行「熱海温泉図考」に日金山・丸山の絵を画く。
万延 1	1860	7月29日、英国初代公使オールコック、三島道より日金山を越て 熱海温泉に向う。
慶応 4	1868	3月17日、神仏分離令が新政府により発令。伊豆山権現は伊豆山神社と改名。 伊豆山神社の神主に復職する。 日金山に籠り、畳を盾に防戦するが官軍によって殺される。(墓碑銘)
明治 1	1868	9月1日を明治元年と改元、7月、江戸を東京と改む。 には5軒の住家があった。伊豆山村の戸数109戸、男328人、女308人であった。
熱海物語より抜粋 「熱海の海底遺跡保存会」		